

第一編

歴史の背景としての自然

第一章 位置と面積

豊津町は福岡県の北東部、京都郡の中心部に位置し、地球上の位置として、町域の北縁は田中北方の北緯三三度四一分二九秒、東経一三〇度五九分五一秒、南縁は豊津、犀川、築城三町の境界としての二〇三・二メートル峰のある北緯三三度三七分三五秒、東経一三〇度五八分五八秒、東縁はあきみ南東方の北緯三三度四〇分二三秒、東経一三二度〇分四七秒、西縁は二月谷西方の北緯三三度三九分三六秒、東経一三〇度五七分二五秒にある。面積は一九・五六平方メートルである(第1図)。

地形的には豊津町は、英彦山・犬ヶ岳山塊から流下する今川、祓川の中下流域に広がり、それらの河川が山地を離れて、行橋平野の低地部に入る、まさにその境界部に位置する。その地形的位置から主として祓川が形成する扇状地の扇頂部から扇央部にかけての一带に位置する。その意味では、町域は行橋平野の一部を占めることができる。

豊津町には豊前国分寺が置かれ、古代の豊前の国の中心であったが、それは高燥な地形上に位置すること、河川の氾濫などの自然災害から守られた、立地上の有利性に基づくものであろう。